

Br. Holdings Report



第10期 年次報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日



株式会社 ビーアールホールディングス

証券コード:1726



「人と人」「技術と技術」の橋渡し

ビーアールホールディングスグループは、
異なる事業特性・成長ステージを擁するグループ企業で構成された企業群を目指します。
そのグループ全体をまとめ、企業価値の最大化に努め、
資本効率のさらなる向上を目指すのが、
ホールディング・カンパニーとしての当社の役割です。
欧州統一通貨ユーロ紙幣の裏面は、全てのコミュニケーションを象徴する
橋のイメージのデザインで統一されています。
株式会社ビーアールホールディングスの経営理念も同じです。
これからも「人と人」「技術と技術」の橋渡しをすることに取り組んでまいります。

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて、当社第10期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)が終了しましたので、当社グループの業績及び事業活動をご報告させていただきます。

当社グループの第10期の業績は、第9期(平成23年3月期)の前半に東日本コンクリート株式会社が、後半に極東興和株式会社が国土交通省及び各発注機関より指名停止の処分を受け、当期期首手持ち工事が通年のほぼ半額、13,293百万円しか確保できず、以前にご報告しましたように厳しいスタートとなりました。当期(平成24年3月期)の発注量は、期首には前連結会計年度末比14.8%減と見込んでおりましたが、期中に発注量の上修正があり、期末には前連結会計年度末比12.4%増と大幅な増加が見込まれました。しかし、当期発注量の実績は前連結会計年度末比5.1%の増加に止まりました。当社グループは期中に受注目標を上方修正し、最大限の努力をしておりますが、当期受注高は17,910百万円(前連結会計年度受注高16,363百万円)と9.5%の増加となりました。その結果当社グループ第10期の売上高は16,650百万円(前連結会計年度売上高22,134百万円)と24.8%減少し、営業利益は266百万円(前連結会計年度営業利益314百万円)と15.1%減、経常利益は119百万円(前連結会計年度経常利益167百万円)と28.5%減となりました。当期純利益は156百万円(前連結会計年度純利益21百万円)となり、中間決算(平成23年9月30日)で一時的に見送りました配当につきましては、期末に復配させていただきます。

また、昨年度は東日本大震災の復旧や、台風12号災害の奈良県十津川村、折立橋の復旧工事に注力してまいりましたが、今年度も東北地域の復興工事を含む災害の復旧には、グループ全社を挙げて取り組む所存であります。

当社グループの第11期見込みは、期首手持ち工事高は13,515百万円(前連結会計年度手持ち工事高13,293百万円)と1.7%の微増に止まりましたが、その粗利益率は1.7%改善し、粗利益額は22.7%増加しており、依然厳しいスタートですが、その内容は改善されております。また、期内(平成25年3月期)の発注量も前連結会計年度(平成24年3月期)比で10.7%程増加すると見込んでおります。その為、当社グループは高い受注目標を掲げ、コスト削減などにも最大限の努力をしておりますので、株主の皆様方のご理解とご支援を引き続き賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
藤田 公康

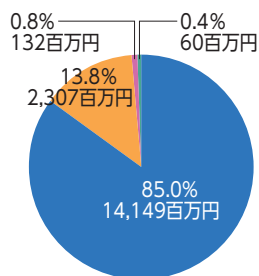
平成24年6月

各事業区分の主要な内容

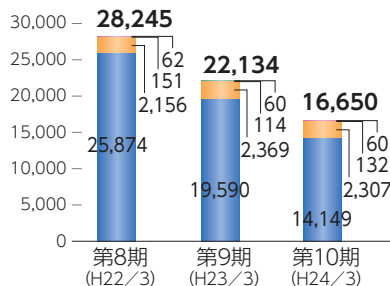
- ① 建設事業 / 橋梁土木工事の設計・施工
- ② 製品販売事業 / コンクリート二次製品の販売
- ③ 情報システム事業 / システム開発・販売
- ④ 不動産賃貸事業 / 当社ビルのマンション賃貸運営等

- 建設事業
- 製品販売事業
- 情報システム事業
- 不動産賃貸事業

▶ 売上高構成比



▶ 売上高推移 (百万円)



(注) セグメント間取引については相殺消去しております。

建設事業

売上高 141億54百万円
前連結会計年度比 27.7%減



建設事業におきましては、公共事業の削減による受注競争激化等、引き続き厳しい経営環境が続いております。当連結会計年度の受注高は143億70百万円(前連結会計年度比8.4%増)、売上高は141億54百万円(前連結会計年度比27.7%減)、営業利益は7億2百万円(前連結会計年度比8.4%減)となりました。

製品販売事業

売上高 27億78百万円
前連結会計年度比 15.5%増



製品販売事業におきましても、その対象は建設業界であり、依然厳しい状況が続いております。当連結会計年度の受注高は31億22百万円(前連結会計年度比16.7%増)、売上高は27億78百万円(前連結会計年度比15.5%増)、営業利益は2億1百万円(前連結会計年度比28.5%増)となりました。

情報システム事業

売上高 2億24百万円
前連結会計年度比 4.8%増



当事業の主な事業内容であるシステム販売では、主製品である「建設業総合管理システム」の市場が土木・建設業界であり、また、ソフトウェア開発は、ユーザー企業のIT投資抑制が継続しており、依然として厳しい状況が続いております。当連結会計年度の売上高は2億24百万円(前連結会計年度比4.8%増)、営業利益は15百万円(前連結会計年度比815.2%増)となりました。

不動産賃貸事業

売上高 2億2百万円
前連結会計年度比 2.1%増



当事業は当社保有の極東ビルディングにおいて、事務所賃貸ならびに一般店舗・住宅の賃貸管理のほか、グループ会社の拠点として、当社が一括して賃借した事務所を各グループ会社に賃貸しており、安定した売上高を計上しております。当連結会計年度の売上高は2億2百万円(前連結会計年度比2.1%増)、営業利益は1億33百万円(前連結会計年度比4.2%増)となりました。

Topics

01

長岡京高架橋 〈極東興和株式会社〉

京都第二外環状道路(通称 にそと)は京都縦貫自動車道を構成する道路で、工事完成後は名神高速道路や第二京阪道路などの主要道路に、直接、接続することができるようになります。本橋は、名神高速道路に近い長岡京市に位置し、上下部一式工事の形態で4工区に分割して発注され、本工事は、最初に発注された3径間連続PRCラーメン箱桁橋2橋を、異工種の共同企業体にて建設しました。周辺の河川で夏に行われる蛍祭りに備えて蛍の幼虫や餌となるカワニナの移設、近隣住民や小中学校に対して頻繁に見学会を開催するなど、開かれた現場、地域と一体となった現場を目指して施工を行いました。



Topics

02

犬落瀬大橋 〈東日本コンクリート株式会社〉

犬落瀬大橋は県都青森市と中核都市八戸市を結び高規格ネットワークを形成する自動車専用道路の一部であり、青森県上北郡六戸町から東北町区間の上北道路に位置しています。本工事の特長は、床版部分をプレキャスト構造とし巨理PC工場にて製作した後、部材をトレーラーにて現場へ運搬し、大型トラックレーンにて橋桁上へ架設した点です。プレキャストPC床版製作中の平成23年3月11日には東日本大震災が発生し、工場の機能も全て停止に陥り復旧・再開の見込みが立たない期間がありました。しかし1ヶ月程度で製作を再開し68枚全て製作を完了することができました。現地での架設・施工はまだ震災の混乱が治まらない中での開始でしたが、資機材の確保・関係者のモチベーションを保ちながら工期を短縮し、無事故・無災害で平成23年11月に工事は完了しました。



Topics

03 古海PCタンク〈極東興和株式会社〉



古海PCタンクは、鳥取市内の工業地区への送水供給を目的とする工業用水配水池で、鳥取県企業局より発注され、当社と地元企業との共同企業体によって施工したタンクです。当タンクは、内タンクと外タンクからなる容量1,180 m³の二重円筒式タンクで、円周方向にPCケーブル、鉛直方向にPC鋼棒を配置したPC構造となっています。当初より平成24年4月の送水開始が決定されていたことから、早期着工、工期短縮に取り組みました。工事終盤における設備工事等複数社の競合や冬期の降雪に苦勞しながらも対応し、無事故・無災害で工事を完了することができました。タンク特有の満水及び通水試験の結果も良好で、発注者より高く評価されています。

Topics

04 下高橋補修工事〈極東興和株式会社〉

下高橋は栃木県大田原市内の住宅街に架かり、周辺住民の生活道路の一部としてなくてはならない橋梁です。下高橋補修工事は、橋梁の機能回復を目的として栃木県から発注されました。この工事には「老朽化したコンクリートの表面被覆」「伸縮装置の設置」「橋梁用防護柵の設置」など、橋梁をリフレッシュする工種が多く含まれています。橋梁及び補修工事は小規模でしたが、都市インフラの長寿命化に欠かせない技術を活用した工事として、当社が誇る工事実績のひとつになりました。



Topics

05 愛知環状鉄道石川架道橋 橋台修繕工事〈極東興和株式会社〉

愛知環状鉄道は、愛知県東部の主要都市を結び幹線鉄道として利用客が年々増加傾向にある一方、鉄道事業を支える橋梁などのインフラは、建設後30年以上が経過したものが多く、老朽化や損傷を修繕する補修工事が計画的に実施されています。石川架道橋の橋台修繕工事は、愛知環状鉄道の修繕事業の一環として発注された補修工事です。本工事は橋台のアルカリ骨材反応による損傷を修繕することを目的として計画され、当社及び協力会社が独自開発した亜硝酸リチウム内部圧入工法が採用されました。亜硝酸リチウム内部圧入工法は、抜本的な解決が困難とされてきたアルカリ骨材反応による損傷を恒久的に抑制できる唯一の工法として採用が拡大しつつあります。



良質な社会資本整備による社会貢献への取組み

祝

新東名高速道路開通

ビーアールホールディングスグループは、橋梁建設を通じて国家プロジェクトへ参画しています。平成24年4月14日、御殿場ジャンクションから三ヶ日ジャンクションまでが開通した新東名高速道路もそのひとつです。新東名高速道路は、我が国の経済発展を支えてきた東名高速道路の渋滞を解消するとともに交通量の増加や車両の大型化に伴う損傷被害の進展を軽減することが期待されています。

新東名高速道路は、台風時の高潮や東海地震による津波被害を受けにくい山間部を通過する高速道路として、山岳部、渡河部、道路交差部において、最新技術を駆使した橋梁建設が進められてきました。波形鋼板とコンク



天竜川橋

リートを適材適所に組み合わせた複合構造橋梁として国内最大級の支間長を有する「朝比奈川橋」や世界トップクラスの径間数と桁長を誇る「天竜川橋」は、新東名高速道路プロジェクトにおいてビーアールホールディングスグループが施工した橋梁の一部です。

ビーアールホールディングスグループは、社会貢献の一環として、現在も整備新幹線やリニアモーターカーなどの国家的大型プロジェクトに参加しています。今後も、これらのプロジェクトへ積極的に参加し、技術を研鑽しつつ社会資本整備に貢献していきます。



朝比奈川橋



■ 連結貸借対照表のポイント

(単位:千円)

	当期末 平成24年3月31日現在	前期末 平成23年3月31日現在
流動資産	7,975,942	7,558,210
固定資産	4,332,051	4,440,521
有形固定資産	3,642,172	3,857,143
無形固定資産	82,860	89,990
投資その他の資産	607,017	493,387
資産合計	12,307,993	11,998,731
流動負債	10,289,592	10,060,438
固定負債	929,835	982,239
純資産	1,088,565	956,054
負債・純資産合計	12,307,993	11,998,731

POINT

連結貸借対照表

総資産は123億7百万円となり、前連結会計年度末比3億9百万円の増加となりました。その主な要因は、未成工事支出金等が増加したことによるものであります。有利子負債は6億28百万円減少し、45億37百万円となりました。純資産は、当期純利益1億56百万円の計上等により、前連結会計年度末比1億32百万円増加の10億88百万円となりました。

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結損益計算書のポイント

(単位:千円)

	当期 平成23年4月1日～ 平成24年3月31日	前期 平成22年4月1日～ 平成23年3月31日
売上高	16,650,135	22,134,618
売上原価	14,688,691	20,149,082
売上総利益	1,961,444	1,985,535
販売費及び一般管理費	1,694,891	1,671,443
営業利益	266,552	314,092
経常利益	119,991	167,808
当期純利益	156,875	21,780

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

POINT

連結損益計算書

売上高は166億50百万円(前連結会計年度比24.8%減)、営業利益は2億66百万円(前連結会計年度比15.1%減)、経常利益は1億19百万円(前連結会計年度比28.5%減)、当期純利益は1億56百万円(前連結会計年度比620.2%増)となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

(単位:千円)

	当期 平成23年4月1日～ 平成24年3月31日	前期 平成22年4月1日～ 平成23年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	685,720	602,561
投資活動によるキャッシュ・フロー	△144,692	△89,398
財務活動によるキャッシュ・フロー	△662,104	△976,501
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△121,076	△463,339
現金及び現金同等物の期首残高	1,350,528	1,813,867
現金及び現金同等物の期末残高	1,229,451	1,350,528

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

POINT

連結キャッシュ・フロー計算書

「現金及び現金同等物の期末残高」は、前連結会計年度末に比べ1億21百万円減少し、12億29百万円となりました。「営業活動によるキャッシュ・フロー」は6億85百万円の獲得(前連結会計年度は6億2百万円の獲得)、「投資活動によるキャッシュ・フロー」は1億44百万円の使用(前連結会計年度は89百万円の使用)、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は6億62百万円の使用(前連結会計年度は9億76百万円の使用)となりました。

■ 会社概要 (平成24年3月31日現在)

商号	株式会社 ビーアールホールディングス Br.Holdings Corporation
設立	平成14年9月27日
本社所在地	広島市東区光町二丁目6番31号
電話	082-261-2860(代表)
資本金	25億円
決算期	3月31日
従業員数	9名

■ 代表者及び役員 (平成24年3月31日現在)

代表取締役社長	藤田 公 康
取締役	長谷部 正 和
取締役	土 屋 英 治
取締役	大 田 光 英
常勤監査役	天 野 敏 彦
監査役	青 砥 悟
監査役	小 田 清 和

■ グループの概況 (平成24年3月31日現在)

極東興和株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/PC建造物の設計・施工、
PC及びPC製品の設計・製造・販売等

東日本コンクリート株式会社

本社所在地/仙台市
事業内容/プレストレスト・コンクリート
建造物の企画・設計・施工・管理等

株式会社構造テクノ

本社所在地/仙台市
事業内容/PC建造物の設計・施工

豊工業株式会社

本社所在地/大分市
事業内容/プレストレスト・コンクリート
及びコンクリート二次製品の設計・製造・
販売等



キョクトウ高宮株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/プレストレスト・コンクリート
製品及びコンクリート二次製品の製造・
販売・施工等

ケイ・エヌ情報システム株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/ソフトウェアの設計開発及
び販売等

株式会社
ビーアールインターナショナル

本社所在地/東京都北区
事業内容/ベトナム及び海外企業への
出資

※平成24年4月1日付にて、東日本コンクリート(株)と(株)構造テクノは、東日本コンクリート(株)を存続会社とする吸収合併を行っております。

株式の状況 (平成24年3月31日現在)

発行可能株式総数 30,000,000株

発行済株式の総数 8,620,000株

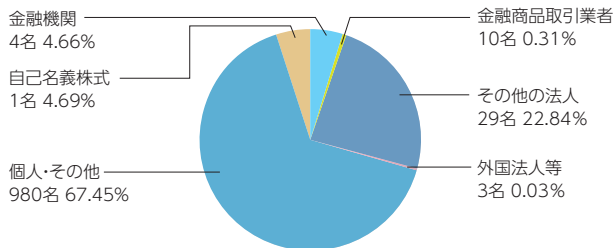
株主数 1,027名

大株主(上位10名)

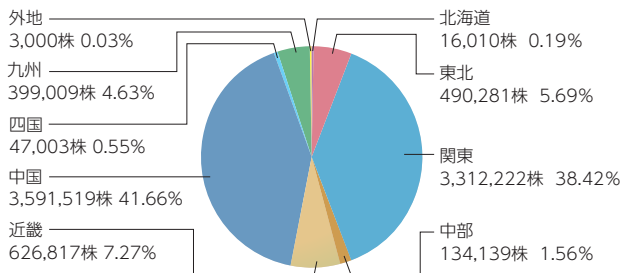
株主名	持株数	持株比率
トウショウ産業株式会社	1,300 (千株)	15.82 (%)
藤田公康	702	8.55
ビーアールグループ社員持株会	470	5.73
極東工業広島支部取引先持株会	304	3.70
広成建設株式会社	247	3.01
極東工業大阪支部取引先持株会	238	2.90
株式会社三菱東京UFJ銀行	200	2.43
藤田衛成	186	2.26
遠藤祐子	185	2.25
藤田雄山	185	2.25

(注) 持株比率は自己株式(404千株)を控除して計算しております。

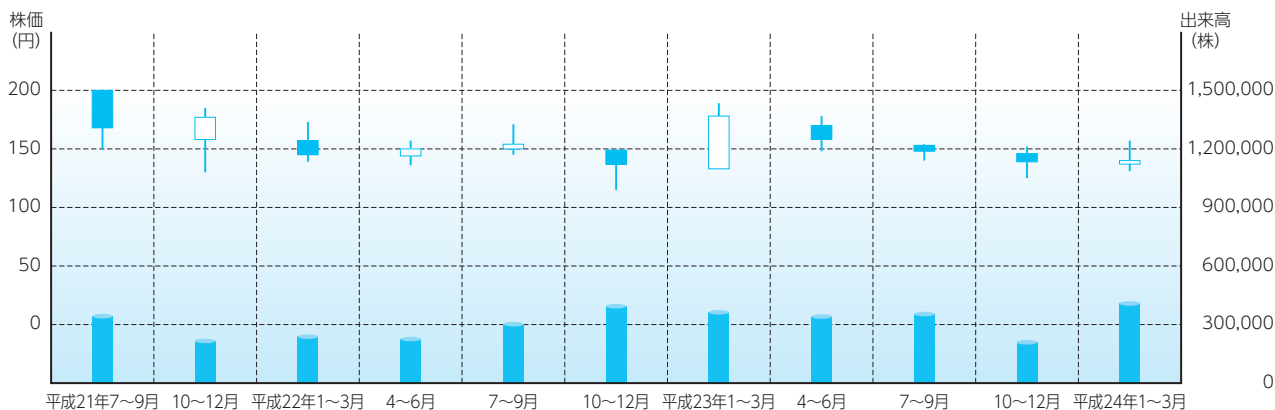
所有者別株式分布状況



地域別株式分布状況



株価の推移



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 当社ホームページ (http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html)にて掲載。 (ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

表紙写真について

田賀高架橋 (極東興和株式会社)



完成写真



施工中写真

本工事は、山陽自動車道と中国自動車道を結ぶ地域高規格道路美作岡山道路の橋梁工事で、岡山県和気町に位置しています。全長755m、25径間のPCコンポ橋で、7工区に分割して発注され、当社は4工区、16径間を受注しました。P18-A2の7径間の工区は、町道及び県道が横断し民家も近接していることから、交通規制日数の短縮が課題であり、対策として、セグメント桁を架設桁上で接合したあと、大型クレーン2台で架設する工法を採用しました。その結果、1日2本の接合・架設を実現し、計28本の主桁を1ヶ月で架設完了させることができました。



株式会社 ビーアールホールディングス

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861

ホームページ <http://www.brhd.co.jp/>

IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧ください。

